

～ 山田賞 ～



岸本 浩行

略 歴

昭和47年9月21日生
平成9年3月 高知医科大学医学部卒業
平成9年5月 岡山大学医学部附属病院 第一外科医員（研修医）
平成9年7月 香川労災病院に勤務
平成11年4月 岡山大学医学部外科学第一講座 研究生
平成13年4月 岡山大学医学部消化器・腫瘍外科学講座 研究生
平成17年11月 脳神経センター大田記念病院に勤務
平成18年8月 カリフォルニア大学サンディエゴ校 外科客員研究員
現在に至る

研究論文内容要旨

近年CT、US、MRI等さまざまな画像診断手段が進歩しているが、未だに微小癌を組織学的診断なくして確定することは困難である。外科手術の際に、リアルタイムに微小癌組織や転移リンパ節を同定する技術は、過不足ない切除を行う患者にやさしい外科治療に重要である。われわれは、テロメラーゼ依存性制限増殖型アデノウイルスに蛍光蛋白質であるGFP遺伝子を搭載し（OBP-401）、癌細胞を特異的に可視化することに成功した。ヌードマウス同所性直腸癌リンパ節転移モデルにおいて、OBP-401の原発腫瘍内投与後に高感度CCD蛍光検出カメラでトレースすることにより、大動脈周囲の転移リンパ節を特異的に検出することが可能であった。OBP-401はウイルス増殖により最終的には癌細胞死を誘導するため、診断・治療を兼ねることができる。OBP-401を用いた腫瘍検出技術は、生体内で転移リンパ節を検出する外科ナビゲーション・システムの臨床前モデルとなる可能性がある。